

薬学部

薬学 科

薬科学 科

医療栄養学 科

履修の手引と手続 (薬学科)

I 授業科目について

薬学部薬学科における授業科目は、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義、演習、実習）及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目は1年次に、関連科目は1・2年次に履修する。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である（学則第15条参照）。

単位認定の評価は、S・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

III 進級基準

1. 当該学年に配分されている必修科目（基本科目及び専門必修科目）の単位を修得しなければ進級できない。ただし、未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目数とは、下級学年の未修得必修科目数をも加算されたものをいう。また、2年次から3年次への進級にあたっては、関連科目（選択必修6単位以上）を必ず修得していなくてはならない。

進級の詳細については、「進級判定の対象となる科目」の表（第1表）の進級条件を参照のこと。

2. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

3. 進級判定の対象となる科目

第1表

		1年→2年	2年→3年	3年→4年	4年→5年	5年→6年
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義	コミュニケーション基礎英語A コミュニケーション基礎英語B コミュニケーション基礎英語C コミュニケーション基礎英語D				
	演習	フレッシュマンセミナー(薬学)A フレッシュマンセミナー(薬学)B				
専門科目	講義	薬学概論 物理化学A 物理化学B 無機化学 基礎有機化学 有機化学A 生物学A 生物学B 細胞生理学 生理学A 解剖学 微生物学	物理薬剤学A 物理薬剤学B 分析化学A 分析化学B 有機化学B 有機化学C 生薬学 生理学B 生化学A 生化学B 免疫学 病原微生物学 基礎栄養学 基礎薬理学 薬理学A 病態学A	医薬品化学 漢方薬 生化学C 公衆衛生学A 毒性学A 毒性学B 薬理学B 薬理学C 生物薬剤学 病態学B 病態学C 薬物治療学A 薬物治療学B 調剤処方学 社会と薬学	公衆衛生学B 製剤学 医療栄養学 薬物治療学C 医薬品情報学 医薬品開発・治験論 薬剤師関係法制度概論 コミュニティファーマシー論	
	演習		薬学英語入門 薬学総合演習A	実用薬学英語 薬学総合演習B 生物有機化学演習 生物統計学演習	コミュニケーション体験演習 薬学総合演習C 薬物治療演習 調剤処方演習 臨床前演習A 臨床前演習B	臨床後演習
	実習	薬学実習A 薬学実習B	薬学実習C 薬学実習D	薬学実習E 薬学実習F	臨床前実習A 臨床前実習B	薬局実習 病院実習
進級条件		1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Aは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。 3) 関連科目6単位修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Bは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Cは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習および専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。

IV 卒業について

- 卒業可能最低科目数及び単位数は次の表に示すとおりである。

第2表

系列		項目	科目数	単位数
		基本科目		
		基本科目	6	10
専門科目	必修		79	162
	選択		4以上	8
関連科目		I群・II群	3以上	6
		計	92以上	186

V 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や、学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語の修得にあてられる。

- 基本科目は、すべて必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- 基本科目は1年次に履修するものとする。

学年配当表

[薬学科]

第3表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
基本 科目	コミュニケーション基礎英語A	LA 1-1_1	②					
	コミュニケーション基礎英語B	LA 1-1_2	②					
	コミュニケーション基礎英語C	LA 1-1_3	②					
	コミュニケーション基礎英語D	LA 1-1_4	②					
	フレッシュマンセミナー(薬学)A	GE 1-1_1	①					
	フレッシュマンセミナー(薬学)B	GE 1-1_2	①					

2. 専門科目

専門科目は、高い専門性を有し、高齢者医療、在宅医療を含む地域の医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するために必要な科目として配置されている。基礎薬学分野には、医薬品を化学物質として理解するための、また、生体の仕組みの基礎を理解するための科目、衛生薬学分野には環境と健康の関連を理解するための科目、医療薬学分野には疾病と治療法を理解するための科目、また、医薬品を管理し、投薬することに関わる知識・技能を修得するための科目、臨床薬学分野には薬剤師として疾病の予防や患者の治療を行う能力を得るための科目、語学・教養、実験・研究、および総合領域には、医療人・薬剤師としての素養を養い、自覚をそだてるための科目、修得した知識・技能を広範囲な領域で応用・展開するための科目を配置している。

専門科目は、必修科目と選択科目からなる。専門必修科目、及び専門選択科目の学年別配当数は第4表、各科目の学年配当は第5表のとおりである。

- (1) 卒業するために、専門必修科目は79科目(162単位)を修得しなければならない。
- (2) 卒業するために、専門選択科目は4科目以上(8単位以上)を修得しなければならない。

第4表

年次	必修		選択	
	科目数	単位数	科目数	単位数
1年	14	27	3	4
2年	20	38	3	6
3年	22	40	7	12
2年～3年のいずれか	0	0	1	1
4年	16	23	2	3
2年～4年のいずれか	0	0	1	1
5年	3	21	0	0
6年	3	3	1	2
1年～6年のいずれか	0	0	5	10
4年～6年のいずれか	0	0	9	15
4年～6年	1	10	0	0
計	79	162	32	54

学年配当表

[薬学科]

第5表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。
単位数に[]を付してある科目は履修年次を選択できることを示す。

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	語学・教養	薬学英語入門	LA 1-1_5		①				
		実用薬学英語	LA 1-1_6			①			
		海外薬学英語研修Ⅰ	LA 1-1_7	2					
		海外薬学英語研修Ⅱ	LA 1-1_8	2					
		海外薬学英語研修Ⅲ	LA 1-1_9	2					
		薬学韓国語	LA 1-1_10	2					
		薬学中国語	LA 1-1_11	2					
	総合領域	薬学概論	GE 1-1_3	①					
		コミュニケーション体験演習	GE 1-1_4				①		
		薬学総合演習A	GE 2-1_5		①				
		薬学総合演習B	GE 2-2_6			①			
		薬学総合演習C	GE 2-3_7				①		
		薬学総合演習D	GE 2-4_8						①
		統合演習	GE 2-4_9						①
	基礎薬学分野	物理系	基礎薬学計算	PS 1-1_1	1				
			基礎物理学	PS 1-1_2	1				
			物理化学A	PS 1-1_3	②				
			物理化学B	PS 1-1_4	②				
			物理薬剤学A	PS 1-2_5		②			
			物理薬剤学B	PS 1-2_6		②			
分析化学A			PS 1-2_7		②				
分析化学B			PS 1-2_8		②				
物理化学演習			PS 1-3_9					1	
化学系		無機化学	CM 1-1_1	②					
基礎有機化学	CM 1-1_2	②							

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
専門科目	基礎薬学分野	化学系	有機化学A	CM 1-1_3	②					
			有機化学B	CM 1-2_4		②				
			有機化学C	CM 1-3_5		②				
			有機化学演習	CM 1-2_6		1				
			生物有機化学演習	CM 1-3_7			①			
			医薬品化学	CM 1-3_8			②			
			生薬学	CM 2-1_9		②				
		天然物化学	CM 2-1_10			2				
		漢方薬	CM 2-2_11			②				
		生物系	生物学A	BI 1-1_1	②					
			生物学B	BI 1-1_2	②					
			総合生物	BI 1-2_3		2				
			細胞生理学	BI 1-1_4	②					
			生理学A	BI 1-1_5	②					
	生理学B		BI 1-2_6		②					
	生化学A		BI 1-2_7		②					
	生化学B		BI 1-3_8		②					
	生化学C		BI 1-4_9			②				
	解剖学		BI 2-1_10	②						
	衛生薬学分野	基礎栄養学	HE 1-1_1		②					
		公衆衛生学A	HE 1-1_2			②				
		公衆衛生学B	HE 1-1_3				②			
		公衆衛生学C	HE 1-1_4				2			
		毒性学A	HE 2-1_5			②				
		毒性学B	HE 2-2_6			②				
		放射化学実習	HE 2-3_7				1			
		薬毒物分析	HE 2-3_8						2	

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	医療薬学分野	基礎薬理学	MD 1-1_1		②				
		薬理学A	MD 1-1_2		②				
		薬理学B	MD 1-2_3			②			
		薬理学C	MD 1-3_4			②			
		生物薬剤学	MD 2-1_5			②			
		薬物動態学	MD 2-2_6			②			
		製剤学	MD 2-3_7				②		
		医療における栄養	MD 3-1_8	2					
		医療における食品学	MD 3-1_9		2				
		食品機能学	MD 3-1_10			2			
		食品調理加工学実習	MD 3-2_11			1			
		病態学A	MD 3-1_12		②				
		病態学B	MD 3-2_13			②			
		病態学C	MD 3-3_14			②			
		ライフステージ栄養学	MD 3-3_15			2			
		栄養・薬学マネジメント論	MD 3-3_16				2		
		医療栄養学	MD 3-4_17				②		
		医療栄養学演習	MD 3-4_18					1	
		薬物治療学A	MD 3-2_19			②			
		薬物治療学B	MD 3-3_20			②			
		薬物治療学C	MD 3-4_21				②		
		薬物治療演習	MD 3-4_22				①		
		生物統計学演習	MD 4-1_23			①			
	臨床薬学分野	調剤処方学	CL 1-1_1			②			
		調剤処方演習	CL 1-2_2				①		
		医薬品情報学	CL 1-2_3				②		
		医薬品開発・治験論	CL 2-1_4				①		
		薬剤師関係法制度概論	CL 2-1_5				②		
		社会と薬学	CL 3-1_6			②			

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	臨床薬学分野	コミュニティファーマシー論	CL 3-2_7				②		
		コミュニティファーマシーインターンシップ	CL 3-2_8				1		
		社会保障制度と薬学経済	CL 3-3_9						①
		看護・介護・社会福祉演習	CL 4-1_10			1			
		臨床心理学	CL 4-1_11			2			
		臨床検査学	CL 4-1_12					2	
		臨床分析学	CL 4-1_13					2	
		緩和医療学	CL 4-1_14					2	
		ハーブ論	CL 4-1_15					2	
		化粧品・医薬部外品学A	CL 5-1_16		2				
		化粧品・医薬部外品学B	CL 5-2_17			2			
		医薬品・食品・化粧品マーケティング論	CL 5-2_18					2	
		実習・研究	薬学実習A	TR 1-1_1	②				
	薬学実習B		TR 1-2_2	②					
	薬学実習C		TR 1-3_3		②				
	薬学実習D		TR 1-4_4		②				
	薬学実習E		TR 1-5_5			②			
	薬学実習F		TR 1-6_6			②			
	臨床前演習A		TR 2-1_7				①		
	臨床前演習B		TR 2-2_8				①		
	臨床前実習A		TR 2-2_9				①		
	臨床前実習B		TR 2-2_10				①		
	薬局実習		TR 2-3_11					⑩	
	病院実習		TR 2-3_12					⑩	
	臨床後演習		TR 2-3_13					①	
	選択実験	RS 1-1_1			1				
卒業研究	RS 1-2_2					⑩			

栄養・薬学アドバンストコースについて

栄養・薬学アドバンストコースを修得するためには、第6表に示されたすべての科目の単位を修得しなければならない。

また、3年次に開講の「食品調理加工学実習」を履修する者は、1年次の「医療における栄養」、2年次の「医療における食品学」と「基礎栄養学」（必修）の単位修得者とする。

なお、3、4年次開講の科目については、履修制限を設ける場合がある。

第6表

学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数
1	医療における栄養	2	3	食品調理加工学実習	1
2	医療における食品学	2	4	栄養・薬学マネジメント論	2
3	食品機能学	2	4	医療栄養学演習	1
3	ライフステージ栄養学	2			

3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系、社会系、自然系）外国語科目、体育関係科目及び語学教育センター講座科目から構成されている。

関連科目は2年次終了時までには6単位以上を修得しなければならない。

学年配当表

[薬学科]

第7表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関連科目I群	倫理とは何か	2					
	現代社会と法Ⅰ(日本国憲法)	2					
	人と文化	2					
	社会学A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	ジェンダー文化論	2					
関連科目II群	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	現代社会と法Ⅱ(国際法を含む)	2					
	数理解析A		2				
	数理解析B		2				
	物理学A	2					
	物理学B	2					
	世界の中の日本A	2					
	世界の中の日本B	2					
	地域と大学	2					
	女性人材開発論A	2					
	女性人材開発論B	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ(女性の働き方)	2					
	女性とキャリアデザイン(女性と企業)	2					
	国際グローバル研修	2					
	自校史研究(建学の精神と大学の理念)	2					
	Oral EnglishⅠA	2					
	Oral EnglishⅠB	2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関 連 科 目 Ⅱ 群	Oral EnglishⅡA		2				
	Oral EnglishⅡB		2				
	資格英語ⅠA	2					
	資格英語ⅠB	2					
	資格英語ⅡA	2					
	資格英語ⅡB	2					
	資格英語ⅢA	2					
	資格英語ⅢB	2					
	資格英語ⅣA	2					
	資格英語ⅣB	2					
	English CommunicationⅠA	2					
	English CommunicationⅠB	2					
	English CommunicationⅡA		2				
	English CommunicationⅡB		2				
	English CommunicationⅢA		2				
	English CommunicationⅢB		2				
	海外英語研修	2					
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語ⅡA		2				
	ドイツ語ⅡB		2				
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語ⅡA		2				
	中国語ⅡB		2				
	海外中国語研修	2					
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語ⅡA		2				
	スペイン語ⅡB		2				
	海外スペイン語研修	2					
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関連科目Ⅱ群	韓国語ⅡA		2				
	韓国語ⅡB		2				
	海外韓国語研修	2					
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語ⅡA		2				
	フランス語ⅡB		2				
	外国語・文化研修 (ヨーロッパ)	4					
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語ⅡA		2				
	ハンガリー語ⅡB		2				
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語ⅡA		2				
	ポーランド語ⅡB		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語ⅡA		2				
	チェコ語ⅡB		2				
	マレー語ⅠA	2					
	マレー語ⅠB	2					
	マレー語ⅡA		2				
	マレー語ⅡB		2				
	スポーツ科学Ⅰ	2					
	スポーツ科学Ⅱ	2					
	地圏環境	2					
	物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	1					
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	1						
情報科学 (演習含む)		2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関連科目群	文化研究Ⅰ	1					
	文化研究Ⅱ	1					
関連科目 (語学教育センター講座)	留学英語ⅠA	2					
	留学英語ⅠB	2					
	留学英語ⅡA		2				
	留学英語ⅡB		2				
	教養英語ⅠA	2					
	教養英語ⅠB	2					
	教養英語ⅡA		2				
	教養英語ⅡB		2				
	英語集中トレーニングⅠA	4					
	英語集中トレーニングⅠB	4					
	英語集中トレーニングⅡA		4				
	英語集中トレーニングⅡB		4				
	Advanced Academic English A		2				
	Advanced Academic English B		2				
	Public Communication ⅠA	2					
	Public Communication ⅠB	2					
	Public Communication ⅡA		2				
	Public Communication ⅡB		2				
	中国語集中トレーニングⅠA	4					
	中国語集中トレーニングⅠB	4					
	中国語集中トレーニングⅡA		4				
	中国語集中トレーニングⅡB		4				
	中国語集中トレーニングⅢA			4			
	中国語集中トレーニングⅢB			4			
	日本語特殊演習ⅠA*				2		
	日本語特殊演習ⅠB*				2		
日本語特殊演習ⅡA*				2			

*の科目は留学生履修科目

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関連科目 (語学教育センター講座)	日本語特殊演習ⅡB*			2			
	日本語特殊演習ⅢA*			2			
	日本語特殊演習ⅢB*			2			
	日本語特殊演習ⅣA*			2			
	日本語特殊演習ⅣB*			2			
	日本語特殊演習ⅤA*			2			
	日本語特殊演習ⅤB*			2			
	日本語特殊演習ⅥA*			2			
	日本語特殊演習ⅥB*			2			

*の科目は留学生履修科目

4. 自由科目

これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

学年配当表

[薬学科]

第8表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
	医薬品情報・マネジメント概論A		2		
	医薬品情報・マネジメント概論B		2		
	NR 特講				1

Ⅵ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

Ⅶ 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

過年度不合格となった科目を再度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年生は認めない）。

Ⅷ 履修上の注意

1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は、全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

2. 上位学年に配分されている科目は履修できない。

ただし、留年者にあつては、未修得科目の再履修を最優先とするが、直上位学年に配分されている専門科目（必修）の講義の履修を認めることがある（上位学年特別単位修得制度）。

(1) 直上位学年に配分されている科目が履修できるのは、留年したその年度のみに限る（前年度以前に留年した学生が進級した場合、上位学年の科目を履修することは認めない）。

(2) 専門科目の演習および実習の履修は認めない。

(3) 履修可能な科目数の上限は、以下の計算式によるものとする。

直上位学年の科目数 - 留年学年以前の未修得科目数

(4) 成績評価は、正規の学年と同時期かつ同条件にて行われる。ただし、この成績評価は、その年度の進級判定には反映されない。

(5) 履修した科目の単位修得後、その学年に進級した場合、再度の履修は認めない。ただし、聴講は認める。

(6) 履修にあつては、当該科目を担当する教員の許可を必要とする。

(7) 履修希望者は、指定された期日に上位学年科目履修願を提出のうえ履修申請しなければならない。

(8) 科目によっては上位学年特別単位修得制度として履修できないことがある。

(9) 専門科目（選択）および関連科目の直上位学年に配分されている科目については薬学部事務室に問い合わせること。

3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。留学を希望する学生については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

Ⅸ 試験について

1. 定期試験及び臨時試験

(1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。

(2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の

受験資格を失う（学則第 25 条）。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始 10 分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後 20 分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中にししまうこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。
(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)
- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 病気、事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書に T の表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
追試験の受験料は、1 科目につき 200 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書にFの表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
再試験の受験料は、1科目につき1,000円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

5. 論文試験(レポート)

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合は上記のそれぞれの手続は必要である。

X 成 績 発 表

1. 成績発表は、Web成績照会システムを用いて行う。開示期間中に指定URLにアクセスし、確認すること。成績の評価は、下記XI GPAについての「GPの基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

XI GPAについて

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPAの意味

- (1) GPAの値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までのGPAや入学からの通算のGPAを比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPAの値には、T評価、F評価およびZ評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPAの計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績のGP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりのGP平均値(Average)

である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

「GP の基準」

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	GP
S	100 ~ 90	合格	4
A	89 ~ 80	合格	3
B	79 ~ 70	合格	2
C	69 ~ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

$$GPA = \frac{[GP \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T 評価, F 評価, Z 評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

(注) GPA 計算式に算入されない科目もある。

XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

XIII 薬剤師国家試験

試験方法・内容などの詳細については、厚生労働省からの連絡を待って通知する。

XIV 薬学部薬学科における卒業後に取得可能な主な資格

薬局の開設者・管理者 医薬品配置販売業 医薬品販売業の管理者 医薬品製造業の管理者
 医薬部外品製造所の責任技術者 化粧品製造所の責任技術者 医療用器具製造所の責任技術者
 毒物及び劇物事業管理者 麻薬管理者 麻薬輸入業の管理者 麻薬製造業の管理者 麻薬卸売業
 の管理者 麻薬小売業の管理者 薬事監視委員 食品衛生監視員 食品衛生管理者 環境衛生指
 導員 検疫委員 衛生管理者 作業環境測定士 環境計量士 危険物取扱者

XV 病院実習・薬局実習について

実務実習（対応する科目は「病院実習」「薬局実習」：5年次に実施）については、原則として「病院・薬局実務実習関東地区調整機構」を介して協力施設に依頼して実施する。

学生が、実際に患者がいる実務施設で、間違いなく、かつ、高い質を保ちながら実務実習を行うために、学生は実習に必要な基本的な知識・技能・態度を修得していることが必要である。また、薬剤師でないものが実務施設で実習を行うために、実習前に共用試験【コンピュータ試験（CBT）および客観的臨床能力試験（OSCE）】に合格しなければならない。さらに、実務実習に先だって、学内において実務実習に対応した学習（対応科目「臨床前演習 A, B, 臨床前実習 A, B」）を行う。

（1）コンピュータ試験（CBT：Computer Based Testing）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な基本的な知識を主に評価するものである。学内のコンピュータを使用して、実施する。

（2）客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な技能・態度を主に評価するものであり、模擬患者にどのように接するか、また、調剤を正しく実施するか、などを教員及び外部評価者（薬剤師）が評価する。なお、本試験は本学で実施する。

（3）学内実務実習事前学習

実務実習に先立って、病院および薬局における調剤・製剤、患者対応などを模擬体験するため、学内において実務実習に対応した模擬実習を行う。

履修の手引と手続 (薬科学科)

I 授業科目について

薬学部薬科学科における授業科目は、基本科目(講義・演習)、専門科目(講義・演習・実習)及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目は1年次に、関連科目は1・2年次に履修する。

そのほか教員志望のための教職関連科目及び臨床検査技師志望者のための臨床検査技師関連科目がある。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である(学則第15条参照)。

単位認定の評価はS・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

III 進級・履修について

1. 当該学年に配分されている必修科目(基本科目及び専門必修科目)の単位を修得しなければ進級できない。ただし、未修得必修科目が3科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目は、下級学年の未修得必修科目をも加算されたものをいう。また、2年次から3年次への進級にあたっては、関連科目(選択必修6単位以上)を必ず修得しなくてはならない。

進級の詳細については、「進級判定の対象となる科目」(第9表)の進級条件を参照のこと。

2. 中・長期海外留学を希望する者については、2年次から3年次への進級条件は、基本科目と専門科目について設けないことがある。ただし、関連科目は2年次終了時までに6単位以上修得しなければならない。また、3年次から4年次に進級するためには、3年次までに配分されている必修科目の未修得科目数を3科目以内とし、さらに専門選択科目については、11科目(22単位)を修得することとする。

3. 上位学年に配分されている必修科目、選択科目の履修を可能とする。ただし、4年次配当の必修科目は4年次に履修するものとする。また、薬科学実習A～Fは、原則として、配当学年次に履修するものとする。

4. 2年次までの所定の単位を極めて優れた成績をもって修得したと認められた者については、2年次から3年次への進級条件は、基本科目と専門科目について設けないことがある。ただし、関連科目は2年次終了時までに6単位以上修得しなければならない。

5. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

6. 進級判定の対象となる科目

第9表

進級	1年→2年	2年→3年	3年→4年
	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義 コミュニケーション基礎英語A コミュニケーション基礎英語B コミュニケーション基礎英語C コミュニケーション基礎英語D		
	演習 フレッシュマンセミナー(薬科学)A フレッシュマンセミナー(薬科学)B		
専門科目	講義 医薬品・食品・化粧品概論 化学A 化学B 基礎有機化学A 基礎有機化学B 物理化学A 生物学A 生物学B 生化学A 微生物学 解剖学 生理学A 基礎薬科学英語	有機化学A 有機化学B 分析化学 機器分析学 生化学B 天然資源学 薬剤学 化粧品・化粧品学A 基礎薬理学(細胞生理を含む) 薬理学A 基礎栄養学 免疫学 機能性食品科学A 生物統計学	医薬品・食品・化粧品製造論
	演習 薬学数学演習		
	実習 薬科学実習A(コンピュータ活用を含む) 薬科学実習B	薬科学実習C(コンピュータ活用を含む) 薬科学実習D	薬科学実習E 薬科学実習F
進級条件	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の2年次までの未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと 3) 関連科目6単位修得のこと	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の3年次までの未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目(選択)の3年次までの講義と演習は、11科目以上(22単位)を修得のこと。 3) 専門科目の実習は全科目修得のこと

Ⅳ 薬科学専攻（大学院薬学研究科）の特例受験について

本学薬科学科の極めて成績等優秀な学生で、3年次終了までに、卒業可能科目数及び単位数をほぼ修得した者は、特別に城西大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の入学試験の受験を認める場合がある。ただし、薬科学科の卒業を認定するものではない。

Ⅴ 卒業について

1. 卒業可能最低科目数及び単位数は次の表に示すとおりである。

第10表

系列		項目	科目数	単位数
基本科目			6	10
専門科目	必修		36	80
	選択		15以上	28
関連科目	I群・II群		3以上	6
計			60以上	124

Ⅵ 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や、学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語の習得にあてられる。

- (1) 基本科目は、全て必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- (2) 基本科目は1年次に履修するものとする。

学年配当表

[薬科学科]

第 11 表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低取得 単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
基 本 科 目	フレッシュマンセミナー（薬科学）A	①				10 単位	
	フレッシュマンセミナー（薬科学）B	①					
	コミュニケーション基礎英語 A	②					
	コミュニケーション基礎英語 B	②					
	コミュニケーション基礎英語 C	②					
	コミュニケーション基礎英語 D	②					

2. 専門科目

専門科目は、薬、食及び化粧品など人体への摂取、投与、接触を目的として開発・生産される化学物質に関する知識集約型産業分野において活躍する高い専門性を有する技術者を養成するために必要科目として配置されている。

総合薬科学分野Ⅰには、医療に関わる技術者としての素養を養い自覚を育てるための科目、基礎薬科学分野には医薬品を化学物質として理解するための、また、生体の仕組みの基礎を理解するための科目、生理・治療分野にはヒトと疾病との関連性を理解するための科目、医療薬科学分野には医薬品を理解し投与することに関わる知識・技術を理解するための科目、総合薬科学分野Ⅱは薬・食及び化粧品の開発・供給に関わる科目、を設置している。

卒業するために、専門必修科目は 36 科目（80 単位）を修得しなければならない。

専門選択科目については 15 科目以上（28 単位）を修得しなければならない。

（1）専門必修科目、及び専門選択科目の学年配当は第 12 表のとおりである。

第 12 表

年 次	必 修		選 択	
	科目数	単位数	科目数	単位数
1 年	16	30	3	3
2 年	16	32	13	25
3 年	3	6	30	56
4 年	1	12	3	6
1 年～4 年	0	0	5	10
2 年～4 年	0	0	5	7
計	36	80	59	107

学年配当表

[薬科学科]

第 13 表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年		
専門科目	総合薬科学分野 I	医薬品・食品・化粧品概論	①				必修科目 80 単位 選択科目 28 単位 選択必修	
		基礎化学	1					
		基礎生物学	1					
		基礎物理学	1					
		薬学数学演習	①					
		課外活動		1				
	基礎薬科学分野	化学 A	②					
		化学 B	②					
		生物学 A	②					
		生物学 B	②					
		物理化学 A	②					
		物理化学 B		2				
		微生物学	②					
		基礎有機化学 A	②					
		基礎有機化学 B	②					
		天然資源学		②				
		有機化学 A		②				
		有機化学 B		②				
		分析化学		②				
		機器分析学		②				
		生化学 A	②					
		生化学 B		②				
		生化学 C		2				
		公衆衛生学 A			2			
		免疫学		②				
		病原微生物学		2				
		有機化学 C			2			
		生薬学		2				

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専門科目	基礎薬科学分野	生物統計学		②				
		薬科学実習A (コンピュータ活用を含む)	②					
		薬科学実習B	②					
		薬科学実習D		②				
		放射化学実習			1			
	生理・治療分野	解剖学	②					
		生理学 A	②					
		生理学 B		2				
		臨床薬理学			2			
		基礎薬理学 (細胞生理を含む)		②				
		薬理学 A		②				
		薬理学 B			2			
		薬理学 C			2			
		基礎栄養学		②				
		栄養生理学		2				
		化粧品・香粧品学 A		②				
		化粧品・香粧品学 B		2				
		毒性学 A			2			
		毒性学 B			2			
		機能的食品科学 A		②				
		機能的食品科学 B			2			
		ハーブ論			2			
		臨床化学		2				
		臨床分析学			2			
		臨床生理学 A		2				
		臨床生理学 B			2			
		診断放射化学			2			
		病理組織細胞学			2			
臨床検査学			2					

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専門科目	生理・治療分野	病態学 A		2				
		病態学 B			2			
		薬科学実習 C (コンピュータ活用を含む)		②				
		薬科学実習 E			②			
		薬膳・機能的食品科学実習			1			
	医療薬科学分野	薬剤学		②				
		物理薬剤学		2				
		生物薬剤学			2			
		薬物動態学			2			
		製剤学			2			
		医用工学概論			2			
		セルフメディケーション論			2			
		臨床心理学			2			
		食品医薬品相互作用論				2		
		漢方薬			2			
		天然物化学			2			
		薬科学実習 F			②			
		総合薬科学分野Ⅱ	メイクアップ論		1			
	医薬品・食品・化粧品製造論				②			
	バイオインフォマティクス				2			
	医薬品開発論				2			
	薬事・食品衛生関連法規				2			
	公衆衛生学 B					2		
	公衆衛生学 C					2		
	医薬品・食品・化粧品マーケティング論				2			
	基礎薬科学英語		②					
	応用薬科学英語			2				
	実践薬科学英語				2			
	企業インターンシップ I				1			
	企業インターンシップ II			1				

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年		
専門科目	総合薬科学分野Ⅱ	医薬品情報・マネジメント概論 A		2				
		医薬品情報・マネジメント概論 B		2				
		薬学韓国語		2				
		薬学中国語		2				
		海外薬学英語研修Ⅰ		2				
		海外薬学英語研修Ⅱ		2				
		海外薬学英語研修Ⅲ		2				
		薬科学卒業研究					⑫	

3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系、社会系、自然系）外国語科目、体育関係科目及び語学教育センター講座科目から構成されている。

関連科目は2年次修了時までには6単位以上を修得しなければならない。

学年配当表

[薬科学科]

第14表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目Ⅰ群	倫理とは何か	2				関連科目 6単位 選択必修	
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2					
	人と文化	2					
	社会学A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	ジェンダー文化論	2					
関連科目Ⅱ群	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2					
	数理解析A		2				
	数理解析B		2				
	物理学A	2					
	物理学B	2					
	世界の中の日本A	2					
	世界の中の日本B	2					
	地域と大学	2					
	女性人材開発論A	2					
	女性人材開発論B	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2					
	女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2					
国際グローバル研修	2						
自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関 連 科 目 Ⅱ 群	Oral English I A	2					
	Oral English I B	2					
	Oral English II A		2				
	Oral English II B		2				
	資格英語 I A	2					
	資格英語 I B	2					
	資格英語 II A	2					
	資格英語 II B	2					
	資格英語 III A	2					
	資格英語 III B	2					
	資格英語 IV A	2					
	資格英語 IV B	2					
	English Communication I A	2					
	English Communication I B	2					
	English Communication II A		2				
	English Communication II B		2				
	English Communication III A		2				
	English Communication III B		2				
	海外英語研修	2					
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II A		2				
	ドイツ語 II B		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II A		2				
	中国語 II B		2				
	海外中国語研修	2					
	スペイン語 I A	2					
	スペイン語 I B	2					
スペイン語 II A		2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関 連 科 目 Ⅱ 群	スペイン語ⅡB		2				
	海外スペイン語研修	2					
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語ⅡA		2				
	韓国語ⅡB		2				
	海外韓国語研修	2					
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語ⅡA		2				
	フランス語ⅡB		2				
	外国語・文化研修（ヨーロッパ）	4					
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語ⅡA		2				
	ハンガリー語ⅡB		2				
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語ⅡA		2				
	ポーランド語ⅡB		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語ⅡA		2				
	チェコ語ⅡB		2				
	マレー語ⅠA	2					
	マレー語ⅠB	2					
	マレー語ⅡA		2				
	マレー語ⅡB		2				
	スポーツ科学Ⅰ	2					
	スポーツ科学Ⅱ	2					
地圏環境	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目Ⅱ群	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	1					
	地学実験(コンピュータ活用を含む)	1					
	情報科学(演習含む)		2				
	文化研究Ⅰ	1					
	文化研究Ⅱ	1					
関連科目 (語学教育センター講座)	留学英語ⅠA	2					
	留学英語ⅠB	2					
	留学英語ⅡA		2				
	留学英語ⅡB		2				
	教養英語ⅠA	2					
	教養英語ⅠB	2					
	教養英語ⅡA		2				
	教養英語ⅡB		2				
	英語集中トレーニングⅠA	4					
	英語集中トレーニングⅠB	4					
	英語集中トレーニングⅡA		4				
	英語集中トレーニングⅡB		4				
	Advanced Academic English A		2				
	Advanced Academic English B		2				
	Public CommunicationⅠA	2					
	Public CommunicationⅠB	2					
	Public CommunicationⅡA		2				
	Public CommunicationⅡB		2				
	中国語集中トレーニングⅠA	4					
	中国語集中トレーニングⅠB	4					
	中国語集中トレーニングⅡA		4				
	中国語集中トレーニングⅡB		4				
	中国語集中トレーニングⅢA			4			
中国語集中トレーニングⅢB			4				
日本語特殊演習ⅠA				2			
日本語特殊演習ⅠB				2			

留学生履修科目

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目 (語学教育センター講座)	日本語特殊演習ⅡA			2		留学生履修科目	
	日本語特殊演習ⅡB			2			
	日本語特殊演習ⅢA			2			
	日本語特殊演習ⅢB			2			
	日本語特殊演習ⅣA			2			
	日本語特殊演習ⅣB			2			
	日本語特殊演習ⅤA			2			
	日本語特殊演習ⅤB			2			
	日本語特殊演習ⅥA			2			
	日本語特殊演習ⅥB			2			

4. 教職関連科目（自由科目）

教職関連科目は、教育職員免許状取得のための授業科目であり、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

詳細については、教育職員免許状取得のための課程の頁を参照すること。

学年配当表

[薬科学科]

第 15 表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数及び履修単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
教職 関 連 科 目	教職論	2					
	教育学概論 A	2					
	教育学概論 B	2					
	教育方法（コンピュータ活用を含む）	2					
	道德教育の理論と指導法	2					
	教育心理学	2					
	教育課程論 （総合的な学習の時間の指導法を含む）	2					
	特別支援教育	2					
	教育史	2					
	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2				
	学校と図書館		2				
	ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2				
	スチューデント・インターンシップ I		1				
	スチューデント・インターンシップ II		1				
	特別活動論			2			
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	理科教育法 A			2			
	理科教育法 B			2			
	理科教育法 C			2			
	理科教育法 D			2			
	介護等体験実習（事前及び事後指導を含む）			2			
	教職実践演習（中・高）				2		
	教育実習 I（事前及び事後指導を含む）				3		
教育実習 II				2			

5. 臨床検査技師関連科目（自由科目）

臨床検査技師関連科目は、臨床検査技師国家試験受験資格を取得のための授業科目であり、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

学年配当表

第 16 表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数及び履修単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
臨床検査関連科目	臨床検査演習 A		1				
	臨床検査総論 A			2			
	臨床検査総論 B			2			
	医療安全管理学			1			
	医用工学概論実習			1			
	血液学			2			
	寄生虫学			2			
	臨床検査演習 B			1			
	臨床化学実習			2			
	臨床検査臨地実習				4		

6. 副専攻関連科目（専門選択科目）

以下の科目は H & BC マネジメント副専攻（H & BC は Health and Beauty Care の略）取得のための授業科目である。以下に示す 2 科目は H & BC マネジメント副専攻希望者には必修となる。

詳細については、副専攻取得のための課程の頁を参照すること。

学年配当表

〔薬科学科〕

第 17 表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
	医薬品情報・マネジメント概論 A			2		
	医薬品情報・マネジメント概論 B			2		

Ⅶ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

Ⅷ 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

過年度不合格となった科目を再度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年生は認めない）。

IX 履修上の注意

1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は、全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

2. 履修方法

上位学年に配当されている必修科目、選択科目の履修は可能であるが、基本的には当該学年に配当されている科目を履修する。ただし、4年次配当の必修科目は4年次に履修すること。

3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。留学を希望する学生については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

X 試験について

1. 定期試験及び臨時試験

- (1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。
- (2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることもある。

2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始10分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後20分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中にしまうこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。

(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)

- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にはその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 事故のため受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書にTの表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。追試験の受験料は、1科目につき200円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書にFの表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
再試験の受験料は、1科目につき1,000円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

5. 論文試験（レポート）

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合は上記のそれぞれの手続は必要である。

XI 成績発表

1. 成績発表は、Web成績照会システムを用いて行う。開示期間中に指定 URL にアクセスし確認すること。成績の評価は、下記XII GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

XII GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までの GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T 評価、F 評価および Z 評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

「GPの基準」

成績評価（表示）	評価の基準（点）	合否	GP
S	100～90	合格	4
A	89～80	合格	3
B	79～70	合格	2
C	69～60	合格	1
F	59以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験（不合格）	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計（T評価、F評価、Z評価科目を含む）}}$$

（注）不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

（注）GPA計算式に算入されない科目もある。

XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。

不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

XV 薬学部薬科学科において取得が有利な主な資格

臨床検査技師 放射線取扱主任者 毒物劇物取扱責任者 医薬情報担当者（MR） 健康食品管理士 ベビーケアアドバイザー 漢方アドバイザー 登録販売者

XV 臨床検査技師国家試験受験資格の取得について

臨床検査技師国家試験受験資格を取得するためには、薬科学科を卒業し、かつ第18表に示されたすべての科目の単位を修得しなければならない。

第18表

年次	授業科目	単位数	年次	授業科目	単位数
2年	病原微生物学	2	3年	病態学B	2
	臨床化学	2		毒性学A	2
	臨床生理学A	2		*臨床検査総論A	2
	病態学A	2		*臨床検査総論B	2
	*臨床検査演習A	1		*医療安全管理学	1
3年	臨床分析学	2		*医用工学概論実習	1
	診断放射化学	2		*血液学	2
	医用工学概論	2		*寄生虫学	2
	臨床生理学B	2		*臨床検査演習B	1
	病理組織細胞学	2		*臨床化学実習	2
	臨床検査学	2		4年	*臨床検査臨地実習
*自由科目				計	42

履修の手引と手続 (医療栄養学科)

I 授業科目について

薬学部医療栄養学科における授業科目は、基本科目は1年次に、専門科目及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目は1年次に、関連科目は、1, 2年次に履修する。その他、栄養教諭志望者のための教職関連科目（自由科目）がある。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である（学則第15条参照）。

単位認定の評価はS・A・B・Cの認定を受けることで単位を修得したことを示す。

III 進級基準

1. 当該学年に配分されている必修科目（基本科目及び専門必修科目）の単位を修得しなければ進級できない。ただし、実験・実習科目の単位は必ず修得していなくてもはならないが、その他の未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。未修得必修科目数とは、下級学年の未修得必修科目数をも加算したものをいう。また、2年次から3年次への進級にあたっては、関連科目（選択必修6単位以上）を必ず修得していなくてもはならない。
2. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

3. 進級判定の対象となる科目及び進級に必要な科目数

第 19 表

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義 コミュニケーション基礎英語 A コミュニケーション基礎英語 B コミュニケーション基礎英語 C コミュニケーション基礎英語 D		
	演習 フレッシュマンセミナー演習		
専門科目	講義 生物学 生物有機化学 医療栄養学概論 微生物学 解剖生理学 A 栄養教育論 A 生化学 A 解剖生理学 B 調理加工学 食品化学	生化学 B 基礎栄養学 食品材料学 A 臨床栄養学 A 細胞生理化学 公衆衛生学 薬物療法学 A 食品衛生学 病態解析学 A 薬物療法学 B 給食経営管理論 ライフステージ栄養学 食品材料学 B 栄養教育論 B 公衆栄養学 A 応用栄養学	病態解析学 B 臨床栄養学 B 食品機能学 公衆栄養学 B 特殊環境栄養学 栄養療法学 医療制度概論 薬理学
	演習 栄養情報科学演習 医療栄養学概論演習	カウンセリング演習 看護学演習 給食経営管理演習 総合演習 A	臨床栄養学演習 A 病態解析学演習 メニュープランニング演習 臨床栄養学演習 B
	実験 実習 基礎分析化学実験 調理学実習 A 生化学実験 食品化学実験	食品衛生学実験 食品機能学実験 調理科学実験 解剖生理学実験 A 栄養教育論実習 公衆栄養学実習 調理学実習 B	栄養学実験 栄養生理学実験 解剖生理学実験 B 臨床栄養学実習 A 臨床栄養学実習 B 給食経営管理実習
進級条件	進級の対象となる科目数 〈21〉	進級の対象となる科目数 〈27〉	進級の対象となる科目数 〈18〉
	1) 基本科目の講義と演習および専門科目（必修）の講義と演習の未修得が 3 科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実験・実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習および専門科目（必修）の講義と演習の未修得が 3 科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実験・実習は全科目修得のこと。 3) 関連科目 6 単位修得のこと。 4) 総合演習 A は 3 年進級上は必修	1) 基本科目の講義と演習および専門科目（必修）の講義と演習の未修得が 3 科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実験・実習は全科目修得のこと。

※ 2 年次は授業負担が大きいため、関連科目は 1 年次のうちに 4-6 単位を修得することが望ましい。

IV 卒業について

1. 卒業可能最低科目数及び単位数は次の表に示すとおりである。ただし、自由科目は卒業に必要な単位数には含まれない。また、卒業に必要な単位数を取得することにより、管理栄養士国家試験受験資格及び又は栄養士免許を取得できるほか、食品衛生管理者や食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。

第20表

系列		項目	科目数	単位数
基本科目			5	9
専門科目	必修		66	108
	選択		4以上	8
関連科目		I群・II群	3	6
計			78以上	131

V 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語力の習得にあてられる。

- (1) 基本科目は、すべて必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- (2) 基本科目は主として1年次に履修するものとする。

学年配当表

[医療栄養学科]

第21表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低取得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基 本 科 目	フレッシュマンセミナー演習	①				9 単 位	
	コミュニケーション基礎英語A	②					
	コミュニケーション基礎英語B	②					
	コミュニケーション基礎英語C	②					
	コミュニケーション基礎英語D	②					

2. 専門科目

専門科目は、医療分野における栄養学のスペシャリストとして社会に貢献しうる人材を養成するために必要な科目として配置され、必修科目と選択科目に分かれている。

(1) 必修科目は、医学、薬学、栄養学の関連分野、及び学士（医療栄養学）・管理栄養士養成のため教育上必要不可欠とされる科目を含んでいる。

卒業するためには、66科目（108単位）を修得しなければならない。

(2) 選択科目は、卒業後の進出分野（医療、地域保健福祉、スポーツ栄養、フードマネジメント、研究開発、栄養教諭、大学院など）を考慮して、それぞれに必要な教育科目を組み入れてある。自分が将来希望する方面や活動する分野を考えて一つの系統を立て、それに合わせて必要科目を選択履修することが望ましい。卒業するためには、最低4科目（8単位）を修得しなければならない。

(3) 専門必修科目及び、専門選択科目の学年別配当は下表のとおりである。

第22表

年 次	必 修		選 択	
	科目数	単位数	科目数	単位数
1年	16	29	2	4
2年	27	44	5	9
3年	18	26	14	26
3・4年	2	4	2	2
4年	3	5	4	8
計	66	108	27	49

学年配当表

〔医療栄養学科〕

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

※食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格を得ようとする者は、*1 A～Dの各群より1科目以上、合計22単位数以上を取得し、加えて、*2群の科目から取得した単位数の合計が40単位数以上であること。

第23表

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数及び修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 医 療 栄 養 学 分 野 目	基 礎 医 療 栄 養 学 分 野	生物学	②				必修科目 66科目 108単位 選択科目 4科目以上 8単位以上	
		細胞生理化学		②				
		生化学A ^{*1B}	②					
		生化学実験 ^{*2}	②					
		生物有機化学 ^{*1A}	②					
		医療栄養学概論	②					
		医療栄養学概論演習	①					
		食品化学 ^{*1B}	②					
		食品材料学A ^{*2}		②				
		基礎分析化学実験 ^{*1A}	①					
		食品化学実験 ^{*1B}	①					
		食品機能学実験		①				
		調理加工学 ^{*1C}	②					
		調理学実習A ^{*2}	②					
		栄養情報科学演習	②					
		生化学B ^{*2}		②				
		基礎栄養学 ^{*2}		②				
		食品材料学B ^{*2}		②				
		調理科学実験 ^{*2}		①				
		ライフステージ栄養学		②				
応用栄養学 ^{*2}		②						
調理学実習B ^{*2}		①						
栄養教育論A		②						

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修 科目数及び 修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目	基 礎 医 療 栄 養 学 分 野	栄養教育論B		②				
		栄養教育論実習		①				
		給食経営管理論* ²		②				
		メニュープランニング演習			①			
		医療栄養学英語A		2				
		医療栄養学英語B			2			
		食品機能学			②			
		特殊環境栄養学* ²			②			
		給食経営管理実習* ²			①			
		栄養学実験* ²			①			
		栄養生理学実験* ²			①			
		給食経営管理演習* ²		①				
		医療経済学				2		
		医療経営学				2		
		臨地実習B				①		
		フードサービス論				2		
		機能的食品論	2					
		グローバルゼイション論					2	
	ハーブ論* ²		2					
	栄養教諭概論A				2			
	栄養教諭概論B				2			
	香粧品学		2					
	衛 生・公衆栄 養学分野	微生物学* ^{1C}	②					
		食品衛生学* ^{1D}		②				
		食品衛生学実験* ^{1C}		②				
		公衆衛生学* ^{1D}		②				
		公衆栄養学A		②				
		公衆栄養学実習		①				
公衆栄養学B* ^{1D}					②			
臨地実習C				1				

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修 科目数及び 修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目	医 療 栄 養 学 分 野	毒性学* ^{1B}				2		
		解剖生理学A* ²	②					
		解剖生理学B* ^{1B}	②					
		カウンセリング演習		①				
		看護学演習		①				
		病態解析学A* ²		②				
		薬物療法学A		②				
		薬物療法学B		②				
		総合演習A		①				
		解剖生理学実験A* ²		①				
		臨床栄養学A		②				
		運動生理学演習				1		
		解剖生理学実験B* ²				①		
		薬物療法学C				2		
		臨床栄養学B				②		
		臨床栄養学演習A				①		
		臨床栄養学演習B				①		
		臨床栄養学実習A				①		
		臨床栄養学実習B				②		
		病態解析学B* ²				②		
		医療制度概論				①		
		薬理学				②		
		診断放射化学* ²				2		
		栄養療法学				②		
		病態解析学演習* ²				①		
		分子生物学* ²				2		
栄養免疫学* ²				2				
臨地実習A					③			

系列	分野	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修 科目数及び 修得単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目	医 療 栄 養 学 分 野	薬物食品作用学				②		
		医療心理学		2				
		介護学演習			1			
		緩和医療学			2			
		医薬品情報学				2		
		スポーツ栄養学演習		1				
		福祉論	2					
		分子栄養学*2			2			
		内分泌学				2		
		薬局実習			1			
		総合演習B				①		
		卒業研究				②		

3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系、社会系、自然系）外国語科目、体育関係科目および語学教育センター講座科目から構成されている。

関連科目は2年次修了時までには6単位以上を修得しなければならない。

※2年次は授業負担が大きいいため、関連科目は1年次のうちに4-6単位を修得することが望ましい。

学年配当表

[医療栄養学科]

第24表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目Ⅰ群	倫理とは何か	2				関連科目 6単位 選択必修	
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2					
	人と文化	2					
	思想と人間	2					
	社会学 A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	ジェンダー文化論	2					
関連科目Ⅱ群	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2					
	数理解析 A		2				
	数理解析 B		2				
	物理学 A	2					
	物理学 B	2					
	世界の中の日本 A	2					
	世界の中の日本 B	2					
	地域と大学	2					
	女性人材開発論 A	2					
	女性人材開発論 B	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2					
	女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2					
国際グローバル研修	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
関 連 科 目 Ⅱ 群	自校史研究 (建学の精神と大学の理念)	2					
	Oral English I A	2					
	Oral English I B	2					
	Oral English II A		2				
	Oral English II B		2				
	資格英語 I A	2					
	資格英語 I B	2					
	資格英語 II A	2					
	資格英語 II B	2					
	資格英語 III A	2					
	資格英語 III B	2					
	資格英語 IV A	2					
	資格英語 IV B	2					
	English Communication I A	2					
	English Communication I B	2					
	English Communication II A		2				
	English Communication II B		2				
	English Communication III A		2				
	English Communication III B		2				
	海外英語研修	2					
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II A		2				
	ドイツ語 II B		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II A		2				
	中国語 II B		2				
	海外中国語研修	2					
	スペイン語 I A	2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関 連 科 目 Ⅱ 群	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語ⅡA		2				
	スペイン語ⅡB		2				
	海外スペイン語研修	2					
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語ⅡA		2				
	韓国語ⅡB		2				
	海外韓国語研修	2					
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語ⅡA		2				
	フランス語ⅡB		2				
	外国語・文化研修(ヨーロッパ)	4					
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語ⅡA		2				
	ハンガリー語ⅡB		2				
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語ⅡA		2				
	ポーランド語ⅡB		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語ⅡA		2				
	チェコ語ⅡB		2				
	マレー語ⅠA	2					
	マレー語ⅠB	2					
マレー語ⅡA		2					
マレー語ⅡB		2					

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目Ⅱ群	スポーツ科学Ⅰ	2					留学生科目
	スポーツ科学Ⅱ	2					
	文化研究Ⅰ	1					
	文化研究Ⅱ	1					
関連科目 (語学教育センター講座)	留学英語ⅠA	2					
	留学英語ⅠB	2					
	留学英語ⅡA		2				
	留学英語ⅡB		2				
	教養英語ⅠA	2					
	教養英語ⅠB	2					
	教養英語ⅡA		2				
	教養英語ⅡB		2				
	英語集中トレーニングⅠA	4					
	英語集中トレーニングⅠB	4					
	英語集中トレーニングⅡA		4				
	英語集中トレーニングⅡB		4				
	Advanced Academic English A		2				
	Advanced Academic English B		2				
	Public CommunicationⅠA	2					
	Public CommunicationⅠB	2					
	Public CommunicationⅡA		2				
	Public CommunicationⅡB		2				
	中国語集中トレーニングⅠA	4					
	中国語集中トレーニングⅠB	4					
中国語集中トレーニングⅡA		4					
中国語集中トレーニングⅡB		4					
中国語集中トレーニングⅢA			4				
中国語集中トレーニングⅢB			4				
日本語特殊演習ⅠA				2			
日本語特殊演習ⅠB				2			

系列	授 業 科 目	年次及び単位数				最低履修科目数 及び履修単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
関連科目 (語学教育センター講座)	日本語特殊演習ⅡA			2		留学生対象科目	
	日本語特殊演習ⅡB			2			
	日本語特殊演習ⅢA			2			
	日本語特殊演習ⅢB			2			
	日本語特殊演習ⅣA			2			
	日本語特殊演習ⅣB			2			
	日本語特殊演習ⅤA			2			
	日本語特殊演習ⅤB			2			
	日本語特殊演習ⅥA			2			
	日本語特殊演習ⅥB			2			

4. 教職関連科目（自由科目）

教職関連科目は、教育職員免許状取得（栄養教諭）のための授業科目であり、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

詳細については、教育職員免許状取得のための課程の頁を参照すること。

学年配当表

第 25 表

系 列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
教 職 関 連 科 目	教職論	2				
	教育学概論 A	2				
	教育学概論 B	2				
	教育方法（コンピュータ活用を含む）	2				
	道德教育の理論と指導法	2				
	教育心理学	2				
	教育課程論 （総合的な学習の時間の指導法を含む）	2				
	教育史	2				
	特別支援教育	2				
	学校と図書館		2			
	ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2			
	生徒指導 （進路指導の理論及び方法を含む）		2			
	特別活動論			2		
	教育相談（カウンセリングを含む）			2		
	教職実践演習（栄養教諭）				2	
	栄養教育実習 （事前及び事後指導を含む）				2	

5. 自由科目

これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

学年配当表

[医療栄養学科]

第 26 表

系 列	授 業 科 目	年次及び単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
	医薬品情報・マネジメント概論A			2		
	医薬品情報・マネジメント概論B			2		

Ⅵ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

Ⅶ 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

過年度不合格となった科目を再度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年生は認めない）。

Ⅷ 履修上の注意

1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

2. 上位学年に配分されている科目は履修できない。

ただし、留年者にあつては、直上位学年に配分されている専門選択科目の履修を認めることがある。

3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。なお、留学を希望する学生および特別な事情がある場合については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

Ⅷ 試験について

1. 定期試験及び臨時試験

- (1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。
- (2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始10分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後20分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机の上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中にしまうこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。
(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)

- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にもその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 事故のため受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書に T の表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。追試験の受験料は、1 科目につき 200 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書に F の表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。再試験の受験料は、1 科目につき 1,000 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

5. 論文試験(レポート)

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合はそれぞれの手続は必要である。

X 成績発表

1. 成績発表は、Web 成績照会システムを用いて行う。開示期間に指定 URL にアクセスし確認すること。成績の評価は、下記 XI GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

XI GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までの GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T 評価、F 評価および Z 評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

「GP の基準」

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	GP
S	100 ~ 90	合格	4
A	89 ~ 80	合格	3
B	79 ~ 70	合格	2
C	69 ~ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T 評価, F 評価, Z 評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

(注) GPA計算式に算入されない科目もある。

XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。

不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

XIII 資格および免許

1. 栄養士について

本学科では、厚生労働省指定科目をすべて必修としているため、卒業と同時に栄養士免許を取得することができる。

2. 管理栄養士について

本学科では、卒業と同時に管理栄養士国家試験の受験資格を取得できる。

3. 食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格について

本学科では、厚生労働省指定科目をすべて必修としているため、卒業することにより、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。

